

## 学修時間調査（2018 年度後期） 分析結果

学習支援センター

2019 年 3 月 13 日

本資料は、2019 年 1 月 11 日から 2 月 4 日にかけて、教務委員会と学習支援センターが実施した「後期学修時間および満足度調査」に関して、学修時間に関する部分の回答内容を分析したものである。昨年度まで、学修時間・学修行動の両方について同じ質問を年 2 回ずつ行ってきたが、学生向けの別調査やアンケートの機会も増えてきた。そこで今年度は、学生の負担を抑えるために、前期を学修時間・学修行動調査、後期を学修時間・満足度調査とそれぞれ設定して、学修時間調査の頻度は保ちつつ、学修行動と満足度を年に 1 度確認することとした。

今回の調査は、本学が学生に提供している Web サービスを用いて全学生を対象として実施した。実施に際しては、これまでと同様、教務委員の方々を中心にそれぞれの学部の取りまとめを行っていただいた。

回答状況を表 1 に示す。4 学部のすべての学年から回答が得られた。全在籍者数に対する回答率は、27.6%と低い結果となった。前回調査での 61.7%と比べると、全学部で回答数・率とも大きく減少している。理由として、①前回までの紙による回答から Web サービスへと調査方法を変更、②調査方法の変更にもなって回答者の情報が回答データに含まれるようになった、及び③その場で用紙に記入させないことで回答しなくても分かりづらい、ことが考えられる。これらは事前に想定していたことではあったが、今後は、教職員に調査の目的をさらに周知する等、回答率の向上・確保を徹底したい。なお、薬学部 5 年生は、学外で実習を行っている時期のため回答率は少ない。

表 1 回答状況（学部・学年別）

	総合経営学部	社会学部	ソフトウェア 情報学部	薬学部	学年計
1 年生	83 名	51 名	36 名	22 名	192 名
2 年生	23 名	8 名	27 名	5 名	63 名
3 年生	12 名	7 名	9 名	11 名	39 名
4 年生	13 名	1 名	15 名	1 名	30 名
5 年生				2 名	2 名
6 年生				1 名	1 名
学部計	131 名	67 名	87 名	42 名	327 名

上で述べたように、今回（後期調査）では学修時間の項目に絞り、学修行動については項目から外した。学修時間の質問内容は、前回までの調査と同じである。質問項目を、この資料の最後に載せる。

以降、それぞれの質問に対して、前期調査との比較も含めた分析結果を述べる。

Q1. 「典型的な一週間あたりの時間の使い方」について、以下のそれぞれの活動にかけている時間を選択肢から選んでください。

この質問では、授業時間外学修の状況を中心に、一週間あたりの時間の使い方を尋ねた。図中の配色は、時間が少ない順にそれぞれ次のようになっている。Q1 では、回答状況を示す図を、「ゼロ（未回答を含む）の者」と「実施している者」の回答の二つに分けて示す。

回答内容

- : 「まったくない」、 ■ : 未回答
- : 「週 1 時間未満」、 ■ : 「週 1～3 時間未満」、 ■ : 「週 3～5 時間未満」、
- : 「週 5～7 時間未満」、 ■ : 「週 7～10 時間未満」、 ■ : 「週 10 時間以上」

ゼミ活動や研究室での研究活動にかかる時間は、総合経営学部とソフトウェア情報学部が多く、薬学部は少ない結果となった（図 1）。前回の調査では学部間の差は縮まっていたが、今回は総合経営学部やソフトウェア情報学部と薬学部の差が大きく開いている。また、この結果は、社会学部の「実施している」が 10 ポイントほど減少した以外は、前々回（2017 年度後期）と同様である。ただし、かけている時間に関して、社会学部とソフトウェア情報学部で「週 1～3 時間未満」の割合が増え、薬学部では前々回は「週 1 時間未満」と「週 10 時間以上」が多かったが今回は分散している。

なお、ゼミ活動や研究室での研究活動にかかる時間の回答は、部・サークル活動にかかる時間と負の相関 (-0.40) が見られた。

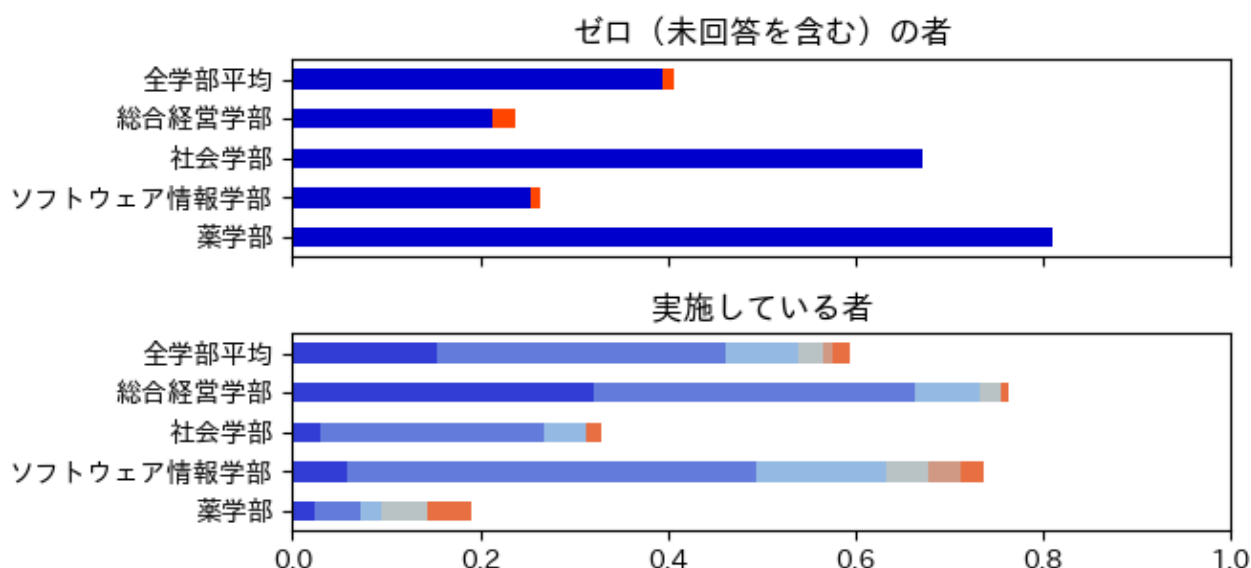


図 1 「Q1-1. ゼミ活動、研究室での研究活動」の回答分布

授業の予習と復習に書ける時間は、図 2 や図 3 のような状況であった。今回も、全体的には予習にかける時間よりも復習にかける時間が多い傾向が続いている。また、薬学部においてほぼすべての学生が日常的に復習を行っており、週に 10 時間以上行っている学生が 11.90%居る等、かけている時間が長い学生も一定数いることも、これまでと同様である。予習している学生は、学部別では社会学部が他学部よりも 10 ポイント程度多い。一方、復習に関しては薬学部が割合・時間とも他学部よりも多く、学部間の差は多少見られるものの 8 割以上が行っていることが分かる。各学部最終学年を除くと、予習と復習の両方を行っていないと回答した割合は、総合経営学部 1 年生が 24.10%と最も高い。

2016 年度以前の学修時間・学修行動調査（抽出形式、1～3 年生対象）では、学修行動の内容と授業時間外学修時間を別々に調べており、直接的には比較できないものの、「予習は復習よりも行っている割合が少ない」ことは変化していない。ただこれまでは「予習時間は 2 年生になると少なくなる」傾向が一貫して見られたが、今回は学年間の差はほぼ見られない。その一方で、復習時間は学年が上がるにつれて増加していた。

なお、Q1-2 と Q1-3 の回答はそれぞれ離散的であるが、これらの間には 0.59 と相関が見られた（前回は 0.45）。

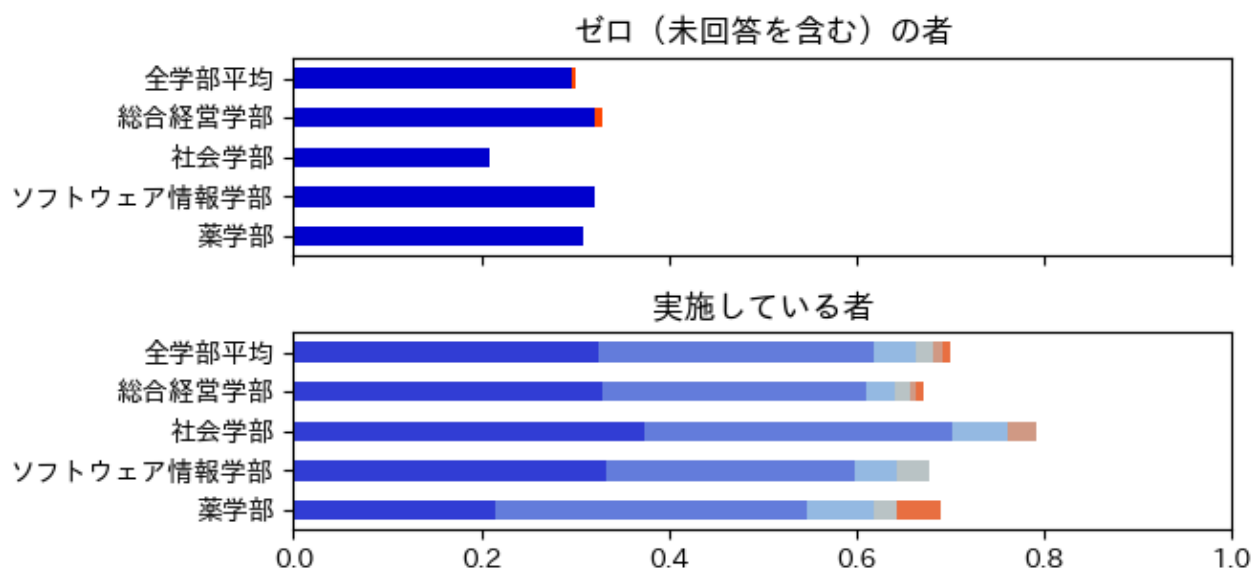


図 2 「Q1-2. 授業の予習」の回答分布

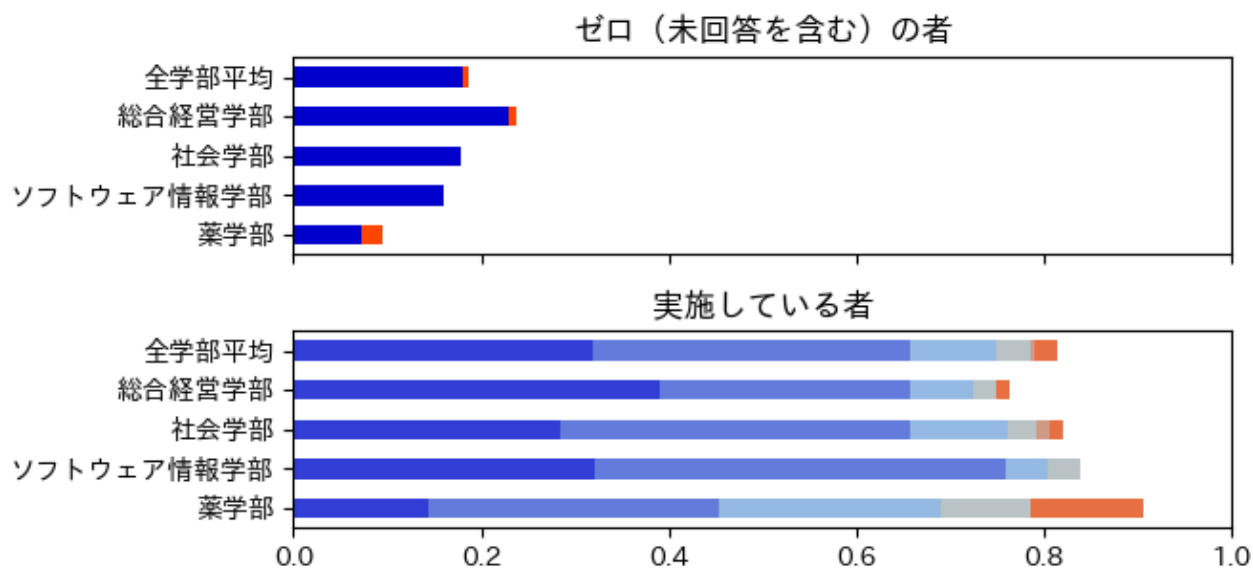


図3 「Q1-3. 授業の復習 (宿題や課題を行う時間を含めて)」の回答分布

予習や復習と別の資格取得のためなどの自主的な勉強時間は図4のようになった。全体では、「実施している」割合が61.47%で、社会学部で割合が大きく、薬学部は少ない。ただし、薬学部では10時間以上の時間をかけている学生が14.29%と多い。

これまでの調査と比較すると、全学の「実施している」割合は、前々回が63.0%、前回は56.3%と大きな変化は見られない。また、上記の、薬学部の「実施している」割合が少なく、かつその中で長時間自主的な勉強を行っている率が高めという傾向も前々回以降一貫している。

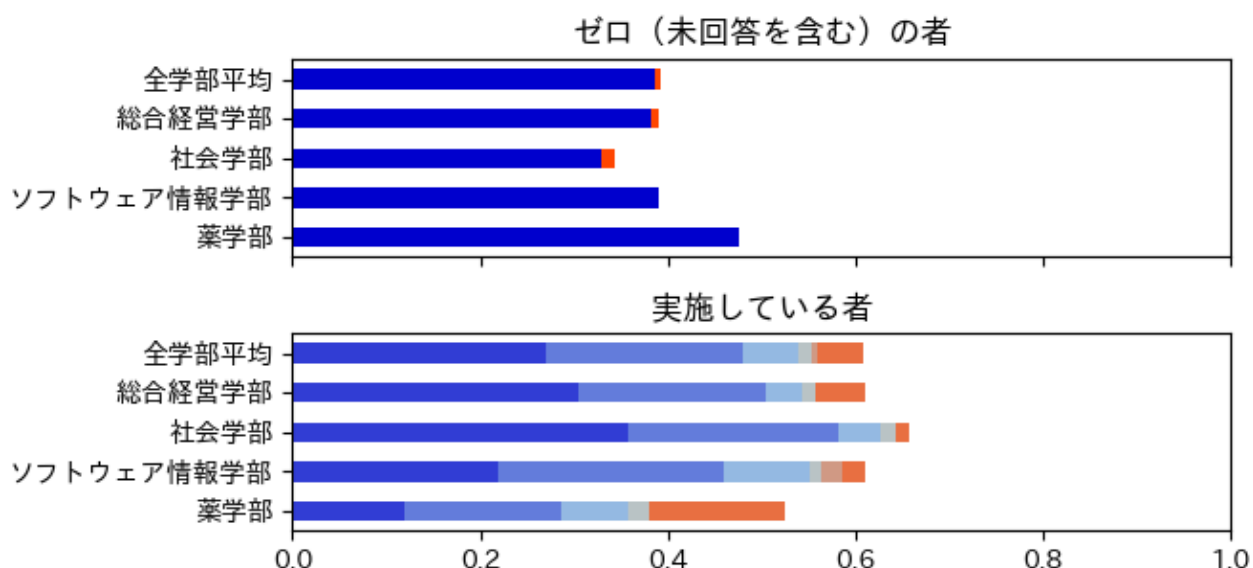


図4 「Q1-4. 資格取得のためなどの自主的な勉強」の回答分布

部活動・サークル活動にかかる時間は、総合経営学部がもっとも多く、次いで社会学部、ソフトウェア情報学部の順となっている。このうち、週に5時間以上かけている割合は、総合経営学部：44.27%、社会学部：19.40%、ソフトウェア情報学部：19.54%、薬学部：2.38%であった。これらの率は全学部で前回よりも減少しており、その幅は、もっとも多い社会学部で10.50ポイント、もっとも少ない薬学部で4.12ポイントであった。学年別に見ると、学年が上がるにつれて実施率・かけている時間ともに減少し、とくに1年生から2年生、2年生から3年生の両方でこれまでと同じく20ポイント程度減少している。

大学外でのアルバイトや仕事にかかる時間は、大学全体では前回と同じく半数程度の学生が「実施している」と回答した。このうち週5時間以上行っている割合は、総合経営学部：40.46%、社会学部：38.81%、ソフトウェア情報学部：42.53%、薬学部：26.19%であった。前回と比較すると社会学部で10.19ポイント減（前回は8.00ポイント増）、薬学部で11.19ポイント増（前回は0.38ポイント増）と2学部で大きな変化が見られた。実施している時間は、全学部で週10時間以上の割合がもっとも大きい。学年別では、前回は3年生で20ポイント弱と大きな伸びが見られたが、今回は2年生が5ポイント程度伸びており、これらの学年では6割の学生がアルバイト・仕事を行っている。また、1年生は前回とほぼ同じだったが、4年生では11.30ポイント（前回は21.30ポイント減）と調査による変動が大きい。

なお、アルバイトや仕事にかかる時間の回答は、他のどの質問とも相関は見られなかった。

**Q2. 2018年度後期の「一週間あたりの授業数」を入力してください。正確な数が分からなければ、おおよそで構いません。**

前回の調査までは「履修した科目数」を尋ねていたが、学生より一週間に複数回授業を行う科目がある等で数えるのが面倒といった意見もあったことから、「一週間あたりの授業数（概数）」を尋ねるよう変更した。これにより、過去の調査と多少の相違は生じるものの大きな影響は無いと考えている。

最終学年（薬学部：6年生、他の3学部：4年生）は、卒業研究や卒業論文に多くの時間をかけているため、それ以外の学年についてまとめたところ、平均受講数は11.78、標準偏差は2.45となった。前者はこれまでの調査とほぼ同じであったが、後者では前回まで3以上であったが減少が見られる。学部ごとでは、平均受講数が10.75（ソフトウェア情報学部）から13.34（薬学部）と多少の違いが見られた。また、標準偏差については2.00（社会学部）から3.16（薬学部）であった。毎回薬学部は他の学部よりも大きい傾向があるが、全体的に値は減少し続けている。

前回までは、学年が上がるにつれて履修科目数は減る傾向があり、この質問の回答と学年との高い負の相関が見られたが、今回はこうした傾向は見られなかった。

初めに述べたように、今回の調査は回答率がこれまでより大幅に低く、分析結果にも影響を及ぼしていると思われる。次回以降は、回答率の確保を目指し、より正確な状況把握に努めたい。

## 2018年度 「後期学修時間および満足度調査」(学修時間の部分)

Q1. 典型的な一週間あたりの時間の使い方

Q1-1. 典型的な一週間あたりの「ゼミ活動、研究室での研究活動」

Q1-2. 典型的な一週間あたりの「授業の予習」

Q1-3. 典型的な一週間あたりの「授業の復習(宿題や課題を行う時間を含める)」

Q1-4. 典型的な一週間あたりの「資格取得のためなどの自主的な勉強」

Q1-5. 典型的な一週間あたりの「部・サークル活動」

Q1-6. 典型的な一週間あたりの「大学外でのアルバイトや仕事」

Q1-1～1-6の選択肢

◇ まったくない

◇ 週1時間未満

◇ 週1～3時間未満

◇ 週3～5時間未満

◇ 週5～7時間未満

◇ 週7～10時間未満

◇ 週10時間以上

Q2. 2018年度後期の「一週間あたりの授業数」を入力してください。正確な数が分からなければ、おおよそで構いません。